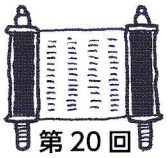


第20回

ヘブル語講座アラカルト『コーデシュ』

―聖―

あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証ししているものです。　ヨハネの福音書5章39節

●これは、ユダヤ人に対して語ったイェシュアのことばです。その中に三度も繰り返されていることばがあります。「**聖書**」です。聖書は神が書き記された書物であり、イェシュアご自身が「**聖書は、わたしについて証ししているもの**」だと語っています。当時の「聖書」とはユダヤ人の聖書（旧約）です。旧約のはじめから新約に至るまで、果たして私たちは聖書をそのように受けとめて読んでいるでしょうか。ユダヤ人の聖書は「タナフ」と言って、「律法・預言書・諸書」を意味するヘブル語の頭文字を並べて表記します。それぞれの最初にある書は「創世記・ヨシュア記・詩篇」になりますが、実は、この三つの書の冒頭にイェシュアが証しされているのです。残念ながら、訳文である日本語の聖書では気づくことができません。

●創世記の最初のことばは「**はじめに**」と訳された「ベレーシート」で、「**初穂によって**」という意味です。「**死からよみがえられた初穂であるイェシュアによって、天と地、すなわち神と人がともに住む家を創造する**」という聖書の根幹のテーマが証しされています。また、ヨシュア記の冒頭にある「**ヨシュア**」という名前は「イェシュア」と同じ語根で、いずれも「**救い**」を意味し、「**約束の地（御国）に導く君（先導者）**」が証しされています。そして詩篇の第一篇は「アシュレー・ハーイーシュ」で始まりますが、日本語訳ではそのように訳されていません。その意味は「**幸いなのは、その人**」です。「その人」とは尋常な人ではありません。**だれにも忖度せず、昼も夜も主のおしえを喜びとし、そのおしえを口ずさんで（思い巡らして）いる人**です。ですから「その人」とは私たちを指しているのではなく、イェシュアを証ししているのです。このように「タナフ」のそれぞれの書の冒頭にイェシュアが証しされているという事実が、聖書全体がイェシュアを証ししていることを裏づけています。なぜなら「最初のものが全体を表す」ということがヘブル的修辞法の特徴だからです。

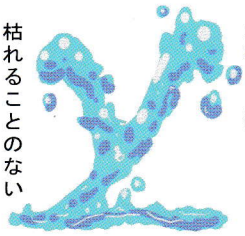
●「聖書」の「**聖**」はヘブル語の「**コーデシュ**」で、「神が取り分けたもの、区別したもの」を意味し、他の書物とは全く異なることを表しています。つまり、聖書は「**イェシュアを証ししている**」という意味で「**聖なる書**」なのです。それと同時に、そのイェシュアを信じて永遠のいのちを与えられた者も「**聖なるもの**」です。なぜなら世界の基が据えられる前から、主のために特別に選ばれ、取り分けられ、永遠に区別されたものだからです。

（銘形秀則）

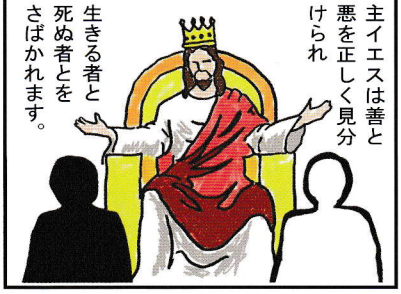
はじめに神は…

アインは「目」を意味する文字です。それは、食べると目が開け

善と悪を見分けるようになり、しかし死にいたる「知識の木」を指し示しています。



またアインには荒野にわく「泉」、枯れることのない「生ける水」という意味もあります。



主イエスは善と悪を正しく見分けられ生きる者と死ぬ者とをさばかれます。

（作・神田満）

編集後記（史料・機関誌委員会から）

戦いが続いた2023年。世界も日本も闇のような状況です。私たちも課題を抱えて歩んでいます。しかし私たちは、ひとりではありません。今も生きておられる主イエスさまがおられます。どのような現実でも賛美しながら、みことばを握り、信じ祈ることができます！

「もし信じるなら神の栄光を見る」と言われるお方が、共に2024年も歩まれます。祝福をお祈りします！

（Y・A）

発行所　宗教法人 日本神の教会連盟
東京都練馬区羽沢二―一二―九
練馬神の教会内
発行者　相原典之
編集者　沼　愼二
福岡県筑紫野市二日市北二―八―六
日本神の教会連盟　二日市栄光キリスト教会
電話＆FAX　〇九二（九二四）五〇九八